



2月、暦の上では節分（立春）を迎え、「春」になりますが、降雪や寒さはこれからが本番です。

「通学は、時間と心に余裕を持って！！」が、基本です。

これから雪が降る日も増えてきます。自転車通学の人はもちろん、徒歩通学の人も雪や道路の凍結による事故が起こりやすくなります。今回は自転車での雪道の安全について考えてみましょう。



自転車での雪道で危険なところ

降り積もった雪

積雪によりハンドルの自由を奪われ、タイヤのグリップが効きづらくなっています。

やわらかな雪でも、降り積もって高さのある雪だと、自転車特有の細いタイヤを持っていかれるという危険性もあります。

橋の上

橋の上は、風を遮るものがない、「吹きさらし」状態で地熱もないため、雪が積もっていても路面が凍結している可能性があります。

一見橋の上は雪がなく、安全のようですが全くの逆になっています。吹きさらしで冷たい風が来るので、凍りやすいのです。

シャーベット状の雪

シャーベット状の雪のすき間からアスファルトが見えたりして、大丈夫そうに思えますが、水分を含んだシャーベット状の雪は結構滑りやすいのです。スピードを出しすぎないように注意しましょう。



ブラックアイスバーン

ブラックアイスバーンという言葉を知っていますか？

黒いアスファルトに薄い氷が張った状態のことです。

一見して、氷がないように見えることが、一番怖いところです。

薄い氷であっても、氷は氷なので、ツルツルと滑ってしまいます。

「アイスバーン」より更に危険なのが「ブラックアイスバーン」氷がよく見えない状態でもあるので、自転車にとって危険な場所です。

時間帯による変化

気温の下がる朝晩や夜の走行は、昼間と比べられないほど危険が潜んでいます。昼間は濡れているだけの路面も、夜には凍結路面となっていることもありますので、さらなる注意が必要です。

朝の時間帯は、日が差して雪が溶けている場合でも気をつけましょう。さっき通った道だから大丈夫と、たかを括ってはいけません！路面が凍結していたり、雪が降り積もっていたり。路面状況は常に変化しています。





雪道はパンクが多い

雪の塊にはかなり異物が混じっています。

積雪期間が長い時や、雪の塊が大きい場合ほど異物が多い可能性があるそうです。雪が溶けるとそれが広範囲に道路にちらばってしまいます。雪だけを危険視してしまいがちですが、実は雪に紛れている危険物もあるのです。

雪や雨の後はパンクが増えるので、路面にある異物にも注意しましょう。

自転車を安全に運転できていますか？

毎日お世話になっている自転車。通学はもちろん、塾に行ったり、遊びに行ったり・・・手軽な乗り物として大活躍していることと思います。

手軽なだけに、事故が多いことも否めません。

京都府では平成30年から自転車保険加入が義務化されました。

自転車の事故では、「対歩行者」「自転車相互事故」に特徴があり、死亡事故につながる場合があります。自転車だからといって交通事故の罪が軽くなることはありません。保険への加入はもちろん、「加害者」「被害者」にならないよう安全運転をしてください。

対歩行者事故、自転車相互事故を起こしやすい年齢 ～13～18歳の自転車利用者は事故の加害者となりやすい～



自転車歩行者事故における自転車の年齢層別 歩行中死者・重傷者数(令和2年)

